

第2回智頭町総合教育会議 議事録

日 時 平成27年12月22日(火)
午後3時30分から
場 所 智頭町総合センター 中会議室

出席者 町 長 寺谷 誠一郎
教育長 長石 彰祐
教育委員 酒本 弘道 徳永 起宏
平井 早苗 米井 照世

事務局 総務課長 葉狩 一樹 主幹 柴田 睦子
教育課長 西沖 和己
図書館長 岡田 美恵子
教育課 課長補佐 岡村 篤朋 福安 教男
主幹 奥村 美佳 坂出 雅彦

1 開会

2 町長あいさつ

本町は軸足を教育に置きたい。これからの世の中を救ってくれるのは子供たちであるということで、「子供たちが町を救う」というテーマを掲げています。小学校統合からはじまって、中学校建築、保育園一園化、安全安心な場所で智頭町の子供を育てたい。建物だけではなく、次は中身であります。智頭の子供たちをどのように育てていくのが大切です。昨今、世の中のタガが外れたようになっているのではないかと、政治や貧困といったところにも課題があります。平成の大合併によって地域がバラバラになってしまっている。今は、地方創生ということでやっています。そういった中で、教育というものがどんどん置き去りになって行っているきらいがあります。そこで、智頭らしい教育ということをご皆さんで検討していただいて、智頭らしい子どもたちを育てていただきたいという思いであります。

3 議事

(1) 平成28年度事業について

西沖課長 平成28年度事業等説明資料により説明。

徳永委員 報告の中で、育児能力の低下、子育て能力の喪失といった現状認識があるとは思いますが、実態としてはどうでしょうか。漠然と聞いていたらそうなのでしょうけども、そこまで悪いのかという思いがあるのと、こうして教育委員としてではなく、智頭の町にいと、子供の数が少ないこともあり、子供が見えない、小学校も見えないし、中学校も見えないんで、こういうことが問題だということ自体も認識できないところです。漠然と感想を含めて申し上げたんですが。

奥村主幹 育児能力の低下といったことを書いておりますが、現在メディアや様々な機器の発達もありますが、世の中に氾濫してきています。スマートフォンなどは、子供を抱いていたり、授乳中にも使っているということや、公園などで子供を遊ばせていて、危険な状況になっていることよりも本人がスマホを見ているというようなこともあります。実際に親子遠足なんかでも子どもたちは遊んでいるが親は座ってスマートフォンを使っているといった状況もみられる中で、遊んでいる子供たちにかかわろうとする保護者が少なくなってきたと感じています。子供たちも、自動車での移動が多いので、地域の人に会ったりといったことが本当に少なくなっていて、地域の人に何かを教えてもらうということも本当に少なくなっています。

この前保育園で耳にした事例なんですけど、4歳児の子供の保護者が「うちの子、字が分からんみたいですよ」ということだったので、これから正月になるし、かるたなんかを使ったらいいんじゃないかなあと言って、「カードめくりなんかしても字が把握できるで」とアドバイスしたところですが、「ああそうか、私は新聞を広げて『その中から〈こ〉を探してみんさい。』て、しようった。」というような事例もあり、子供に何が必要なのか、何が向いているのかわからないお母さんであったりといったことや、あたご保育園の1歳児を担当していた時の話では、朝、「先生、黒いうんこが出た、黒いうんこが出た。どうしたらいいだろう。」と言ってこられたことがあって、「まあ、落ち着いて、前の日は何を食べた？」といったことを聞いたり、「どんなうんこだった」と言えば、「良

いうんこだった」ということだし、その子も元気に走り回っていて、どんなものを食べたかということを知り、「おやつは何を食べた」というようなことを聞いていくと、「野菜ジュースを飲んだ、紫の野菜ジュースを飲んだ」「それだわお母さん、濃い色のものを飲んだりすると小さい子供は、すぐにうんこが黒くなったり、スイカをいっぱい食べたら赤いうんこも出るし、みかんを一杯食べたら黄色くもなるだで。」というような形で、何かがあったらあわてるんだけど、それまでにこれをこうしたらこうなるかなあというような意識なんかは本当に分からなくなっている親御さんが多くなっているなど、感じます。

これまでのように普通にアドバイスをしてもなかなか通じにくくなっていますし、園のたよりなんかを出してもそれを読むことよりも他のことに目が行っていて大切なことが伝わってなかったりするので、そういうような保護者と向き合って話をするのが保育園です。支援センターでも子供を保育園に預けているお母さんが仕事が休みの日にお母さんだけで支援センターに行って、「ここにおらせてください。」というようなことで支援センターで過ごして、先生に相談するというだけでもなく、子育てをしている保護者さんの中にいるのが安心するとか、一人でいるのが不安であったり、そういった不安を抱えたお母さんも増えているという実感があります。育児的にも母性的にも子育てに向きにくくなっている保護者も多くなっていることで、こういう表現とさせていただいています。

今年度、要保護児童に対する支援事例については、大阪に住んでいて、子供ができたが赤ちゃんはほしくないという案件があり、男性の方も、子供がいるのなら別れるという言い分、赤ちゃんはほしくないから、里親にでも出してもいいです。というような案件がありました。これについては、祖父母が面倒をみるということで落ち着いたが、赤ちゃんができることの予測ができなかったり、子供が生まれてからも母性の形成ができないといった事例があります。児童相談所と福祉課、智頭病院と連携して事業を進めています。

寺谷町長

徳永さんの質問は、まさにその通りで、資料としても、活字の羅列となっている。智頭町にはどういった事例があつて、どうい

った対策をしているといったようなことを具体的に示して頂かないと活字の羅列になってしまいます。この会では、もっと追究していくことが必要だと思います。

文章だけを読んで上っ面をバーとって、「いいですね。さあ、智頭の教育はいいぞ」というようなものではないと思います。もっとえぐって、智頭の教育のこういったところを伸ばそう、智頭の教育のこういったところがいけないのではないかとといったところをやってもらわないとさみしい。建物だけはお金をかければできるかもしれないが、ここだけは全国どこにも負けないとか、いうことが必要です。いま、奥村さんが説明してくれたように、お母さんのルールということも丸っきりできていない。スマホを見て子供をほったらかしで、先生に預けて画面ばかり見ているでしょう、そんな時にどうするか、教育委員会としてスマホなんかをもってくるな、子供を育てるということはどういう考えだというくらいのことを言わないと、だから平気になっている。

東京のど真ん中でも、山手線の電車の中でも化粧をするような人がいる。これは、野放しだからです。何やってるんだと思う。一番大切なルールが全国どこでもかかもしれないが、議論されていない。上っ面ばかりになっている。いい子をつくりましょう、元気な子をつくりましょう、というようなことですが、もっと深く、事務局を突いて行って議論する必要がある。

酒本委員長 行政にはものすごくいい支援をしてもらっていますが、本当にどれだけしたらいいのかと思います。えらい時代になるなあと思います。

寺谷町長 わがままな人間が増えている。保護者を怒るぐらいのことでもないけど収拾がつかない。先生も保護者を怒れなくなっている。子供を教育するのは大変なことだと思います。上っ面だけでは薄っぺらでもったいないと思います。

徳永委員 聞かせてもらったところによると、いろんな支援策があり、それぞれの個人の状況に対して議論され、支援がなされていることにびっくりしました。

寺谷町長 保育園のお母さん方がスマホに夢中になって子供をほったらかしにしている姿が目につかびます。智頭の教育として保育園や学校にはスマホをもっていくのはやめてくださいといったお達しや通達をするというように、それくらいきつい事を言わないと今の若い世代は聴かない。文句があるなら町長や教育長に言ってきて

もらうということも必要だと思います。うちはそういう方針ですからということを出せばいい。そして保護者も向かってきてもらえばいいという強い姿勢が必要だと思います。全部が全部でなくても、ポイント、ポイントに対してそういった方針を出していくのがいいような気がします。

西沖課長

子供が犠牲になるような社会であってはいけない。子供の貧困ということが今日問われています。子供の貧困の裏側には大人の貧困という問題が必ず見えてくることでもある。もので栄えて、心で滅ぶという言葉がありますが、大人一人ひとりが地域の中でどのように関わりをもっていく、行政の担うべき役割、あるいは、地域社会が担うべき役割、そういったところを明らかにしていかななくてはならないと考えます。学校教育の役割、社会教育、家庭教育の役割ということもふくめて、教育のスタイルを明らかにしていく必要があると認識しています。新年度に向けても事業を組み立てていきたいと考えています。

寺谷町長

スマホの話聞いても明らかだが、智頭町教育委員会として、あるいは智頭町の教育を預かる者として、保育園で一番困っていることはなんなのかを聞いて、また、小学校の先生に聞いて、今一番困っていることは保護者の対応なのかそれとも他にあるのか、と、中学校はどうなのか、それぞれ聞いて、教育委員会の立場で、これとこれは絶対にやるよ、解決するよといったインパクトのあることをパンと出すようなことを実践するのはどうでしょう。

もし、保護者が横暴だというのなら智頭町は絶対横暴は許さないといった方針を出すなどの事をやっていくというように。現場の困っていることは何なのかじっくり聞いたり、学校の先生を集めて一人ずつ困っているのかといったことを聞いてやっていただくといいと思います。これだけは智頭町では守りましょう、小学校は本気でこれを守る、中学校はこれといったことを打ち出すのも必要です。それに対しての文句は教育長、町長に言ってきてもらう。そういった覚悟をしないと、生易しいことだけでは教育はできないと思います。

おせっかい宣言をしたのですが、おせっかいということは本当に勇気が必要。しかし、本気で地域が豊かになるためには勇気が必要。本気にならないといけない。おせっかい宣言をしたが、なんにもせずにおればすぐに消えてしまいます。町長の私に対してもこういったところを直したらいいと思うと言ってきてもらって、

それを直すことができれば、喧嘩にはならない。私も幸せになれるし、言った人も言ってよかったといえることができる世界をつくらないといけないとおもいます。

学校も保育園も保護者は野放し、学校に預けっぱなしといったことでは困る。

西沖課長 一般、保小中高のPTA連合会との協議会がありました、保護者として大人としてどのように関わっていくのかといったことを保小中のPTAに話してもらったところです。教育行政としましても、当然やらなくてはならない課題解決に向けての取組については、力強く実施してまいります、やはり、家庭や地域社会にある問題にかかわっている一人ひとりの協力がなくてはなかなか動かないということもあると思います。そのあたりにつきましても、教育委員会としましてアプローチしていきたいと考えています。

徳永委員 小中学校を数回伺ったが、校長先生との話の中でいいことというのはよくわかったが、問題ということ、先生が抱える問題というものについてはまだよくわからなかったところで、まだ、本気でぶつかっていく教育委員というものになっていないんですけれども、先生の抱える課題というものはどうすればわかるのだろうと思います。聞いたらすぐに返ってくるものなんでしょうか。保育園に行って「どんなあな」と言ったらええものなのかどうでしょう。

岡村指導主事 前任の伊藤委員さんの「学校の本音が聞きたい」と言われたところから、今年から教育委員と教員とのディスカッションということを取り入れていますが、小学校では、その中ということではないが、指導主事に対して終わってから何点か多目的ホールがあればよかったと言ったような要望等出てくることがありました。中学校は1月に訪問しますが、その際に話をする機会はあると思います。

寺谷町長 ほしいもの、あったらいいものということはあると思いますが、ぜいたくを言えばきりがありません。多目的ホールの話が出てきますが、やはりあった方がいいものなんでしょうか。

岡村指導主事 やはり必要なものです。

寺谷町長 今、学力というものの現状はどうか？

長石教育長 小学校はいい状況です。中学校に行くと、トンと落ち、またじわじわと上がってくるという状況です。ここの落ちるところが小

学校、中学校と協議するがわからないところです。

岡村指導主事 一つは環境の変化というものがあります。小学校と中学校で学習のスタイルが変わるとか、教科担任制になるということも考えられるので、小学校の時から中学校の先生に出前授業というようなことをしてもらったり、というようなことで、中1ギャップといわれるようなものを減らそうとはしています。あともう一つ考えられることに、家庭が少し手を離されるのではないかと思います。それから、小学校から中学校で思春期を迎えますので、学校や家で親の言うことを聞いていた子供たちが、心の成長と共に取組に対して、気随ではないですが、そのようなものが出てくるのではないかと思います。智頭中学校では、少し規律面が弱いような調査結果が出ていますので。

寺谷町長 全国的に小学校と中学校の変わり目というものはあるのは確かなものでしょうから、小学校から中学校が変わるときに全国で落ちてしまうのかそのあたりはどうでしょうか。智頭だけで落ちるのならその原因が何かあるはずなんで、鳥取なんかはどうなのでしょう。

長石教育長 県内の町村の傾向は同じようであるが、その中でも智頭が顕著に表れています。若桜町は逆の傾向です。小中一貫で行っているのだといえるようです。若桜の教育長の話ですとうちは上がると言われる。

米井委員 ひとつよろしいでしょうか。これも教育関係者の方からの話なんですが、県境にみられる傾向があるというようなことをおっしゃられていました。県境や山奥だったりすると、地元にお子さんを残したい。だから地元からそんなに出んでもいいという親御さんやおじいちゃんおばあちゃんの意識というものが伝わっているのではないかとということを教えてくださいました。

長石教育長 勉強せずに地元に残れというようなことでしょうか。昔はそういったことが言われた時があったようです。

寺谷町長 そう言われた時代もありましたねえ。でも、また一時期は、こんな田舎におるな、田舎におらずに外に出てがんばって偉い子になれというような時代もあるし、時代時代でしょうけどねえ。

小学校から中学校に行くときにどんと落ちるということだが、こういうことが考えられるというその中の一つでもいいからそれを追究をすとかということ徹底してやってみると何かインパクトがあると思う。

長石教育長 橋本校長も、がんばるんですけどと言うんですが、3年生になると結構上がってくるので、学校自体はがんばっているようですが、おんなじ人間なのになぜなのでしょう。

平井委員 うちの子も6年生なんですけど、精神的に反抗期になると真面目がかっこ悪い、みんなと一緒に怠けたら一緒に怠けてしまうという精神が強いのかと思います。ずっと少人数で上がってきていますが、そのへん友達に合わせてします。そこでちょっと中学生になると勉強もいろいろあるし、部活も忙しいし、中学校で忙しくなったときに勉強を怠けてしまうということが多いと思います。そういったときに、誰か尊敬できる人や目指すべき人、目標をもつ意識というものも大切だと思います。

徳永委員 智頭でも学習塾が増えていますが、塾のあり方とか議論ということもあると思います。何のために行くのか、変なことですがそう思う時があります。

平井委員 親の安心感ということもあると思います。

徳永委員 できない子ができるようになる、できる子がもっとできるようになる、もっと上を目指すともまた違うと思う。この前中学校に行ったときに感じたんですが、先生自体授業をどう運営していくかといったときに、たぶんでできない子はたいぎいと思います。できる子は手持ち無沙汰で授業を受けているように思います。また、できない子は面白くない。1時間の授業をどうするか、先生は苦労していると思いますが、どんな取り組みができるのかと思います。子供にも、自分をもっと頑張るんだとか、みんながこうだからというように両方の子がいると思う。塾には、どのような子供たちが行くのか、大阪も東京も塾というものは変わらない教育ができるようになってきているのかとも思います。

(2) いじめ問題対策について

西沖課長 いじめ問題対策についてに議事を移らせていただきます。

資料により説明

寺谷町長 町ではいじめは今、兆候はあるのですか。

西沖課長 全くないということではありません。学校からは小さいいじめ等学校現場からは、報告を受けています。

寺谷町長 小さいいじめとはどのようなことですか。

西沖課長 たとえば、クラスの同級生のものを隠したり、あるいは、掃除の時間中に命令したりといったことや、個人攻撃をするというようないじめの報告があります。

寺谷町長 どこまでが小さいじめで、どこからが大きなかわからないが。

西沖課長 それから、集団の中からのなかまはずしということにもつながってきます。

寺谷町長 そういったことが起こった場合はどういった指導をしているのか。

西沖課長 学校現場においては、事実確認を双方の話を聞いたうえで、それぞれの双方の保護者にも連絡をして、子供の心のケアなどの情報を提供した後に、した側にたいしての指導、された側の子供の気持ちを聞き出していくというようなことを継続していじめ防止に努めているというのが昨今の状況です。

寺谷町長 で、そういうことをやって、子供だからお互い違和感なしに「ごめんな」と言って仲直りできるの。

長石教育長 はい、できている状況です。

寺谷町長 ちょっと手当してやると、ごめんなと言って仲直りできるんですね。だから、それを見過ごすと大きなことになっちゃうんですね。

西沖課長 そういった行動に至った理由ということもあるわけで、そういう背景にあるものを学校と家庭とお互いが丁寧に出し合いながら分析することによって、そういう行為に走ったのかという分析に対する取り組みも進めています。家庭との連携も進める必要がある。

寺谷町長 おせっかいというテーマで進めていますが、昔から「はね子」なんかはいっぱいあった。しかしそれを平気でクリアしていった。今は深刻化されていますが、かつては、周りの大人が見ている現実から気がつく人が声をかけていた。そういうおせっかいをみんながしていた。それで結構クリアできていた。学校にお願いする必要なしに地域でもそういったことが解決されてきたという現実がありました。今はもうおせっかいする人がいないから、おかしいなと思っても、知らん顔をしていて、何か起こってからやっばりなあと行って、みんなが傍観者となる世の中となってしまうている。そんなのはやめにしよう、智頭町ではみんながおせっかい

になっていいやっこすればいいんじゃないかということを広げていかななくてはいけないという中で、子供は学校に預けてしまったら学校任せの世界になってしまっている。子供を育てる基本は親だと思う。家庭教育というものをもうちょっと喧嘩腰でも向かっていかないといけないと思っています。学校ばかりに頼るのはおかしい。自分の子は自分で育てる。スマホばかり見ていてどうするのか。

ターゲットをつくっていく必要がある。文句は教育長と町長にと言った宣言をするのもどうか。学校教育といっても、若い新任の先生もいて、保護者が怒鳴り込んで来たら怖いと思う。何か突破口が必要です。

米井委員 親育てが必要。過去にははね子があっても何とか跳ね返していたと思う。私の経験から申し上げますと、「先生をいじめよう」というリーダーからの指示に従わなかったことで自分がいじめられることとなったが、今考えると、その時自分の中に親が正義感というものを植え付けてくれていたのではないかと思うのと、それをやっていたら自分が嫌いになっていたと思います。小さなお子さんのうちに、そういった正義感や思いやりということがはぐくめるような取り組みが必要だと思います。小学校や中学校では遅いと思います。もっと小さなお子さんに正義感、思いやりをはぐくめるような、具体的なことを思いつくことができなかつたのですが取り組んでいただきたい。そういったものがはぐくめるような親育ても出来たらなあという風に思います。

寺谷町長 親育てということも大切ですね。とても難しいことだとも思います。

平井委員 子育てでも難しいのに、親育てはもっと難しいことだと思いますが、しなくてはいけないと思います。もうそこまで来ているように感じました。

徳永委員 手法はわかりませんが、地域の方は案外周りの人のことをよく知っているもので、地域の間人間関係を有効に生かすことができればいいのではと思います。

寺谷町長 その関係がおせっかいだと思います。

徳永委員 町長の手のひらに乗ってしまいましたが、そういったことがうまく働けばいいと思います。

寺谷町長 昔は先生といえば、親も子供もびりびりしていた。家庭教育ということで、親がしっかりしつけをしていた。地域で子供をみん

なで見ていた。それが崩壊してしまった。これは、国の責任でもある。国が貧困だから、政治が貧困だからこんなことになってきた。

スマホばかりしている親。公園を家の近くに作ってほしい。水筒持参と書いたら中身を入れずにもってこさせる親。こういったことが平気である。今一番欠けているのが家庭教育だと思います。だからこそのおせっかい。みんなでおせっかいをすることが必要。一人ですらとしようとするから大変なのであって、みんながおせっかいだらけならみんなが平気でおせっかいできるようになる。家庭教育が一番大事。教育できていない親が子供を産むんだから教育できるわけがない、だからこそ家庭教育だと思います。

西沖課長 4番目のその他ということで2点報告させていただきます。この2点の報告をもちまして、本日の総合教育会議を終了させていただきます。

1点目おせっかいのまちづくり宣言について資料をもって説明

岡村指導主事 2点目として智頭町ならではの教育として地域を題材にした学習一覧について資料をもって説明。

もう1点新田サドベリースクールに通う児童生徒の状況をまとめたものを説明